

(きつね)

ちょっとだけわかりやすい作品がでてきたわ。

えーっと、はしごを登ると高いところから壮大なけしきが待ってるんやな。よいしょっ、よいしょっ、・・・・。

どうも、むずむずするなあ。

なんや！ このたてものお!?

(うさぎ)

二次元世界のマジックやでえ～。

このむずむず感っ。この静けさっ。それに、このバラバラな感じっ。

くせになりそう！ きゅっ。

エッシャーはんの別の作品も、もっと見せてえなあ。

M
C
E
ッ
シャ
ー

《物見の塔》
ものみ
とう



マウリツ・コルネリス・エッシャー(1898-1972)
オランダで生まれた。最初建築学をこころざしたが、21歳のときから本格的に版画を学んだ。お父さんは水力学技師で、日本政府に頼まれ来日し、大阪港の建造物の設計をしたこともある人。エッシャーの親戚には技術者や科学者がたくさんいた。細密で奇妙な幻想世界をリアルに表現した彼の人気は絶大なもので、著書の『版画の技術』や『M.C.エッシャーの世界』という本は、飛ぶようにして売れ、また、展覧会をすると会場に入りきれない客が集まった。

